

タイヤ 公取協 だより



miniタイヤ公取協だより07です。
冬道を運転する季節となりました。降雪地区の皆様は冬タイヤ需要が落ち着いたころでしょうか。これ以外の地区は毎日降る雪ではなく、単発で降る雪に備える時期だと思えます。今号ではこの「たまに降る雪」にフォーカスしてみたいと思います。

“たまに降雪”地区の消費者意識

お店にて

～では今週末に大雪予報があり～

今週の雪予報で、お店がてんてこまいだな。

ほんとうですね～ 一気に忙しくなりましたね。

普段、雪が降らない地域だと、これからの季節の積雪・降雪予報が気になって仕方ないですね。

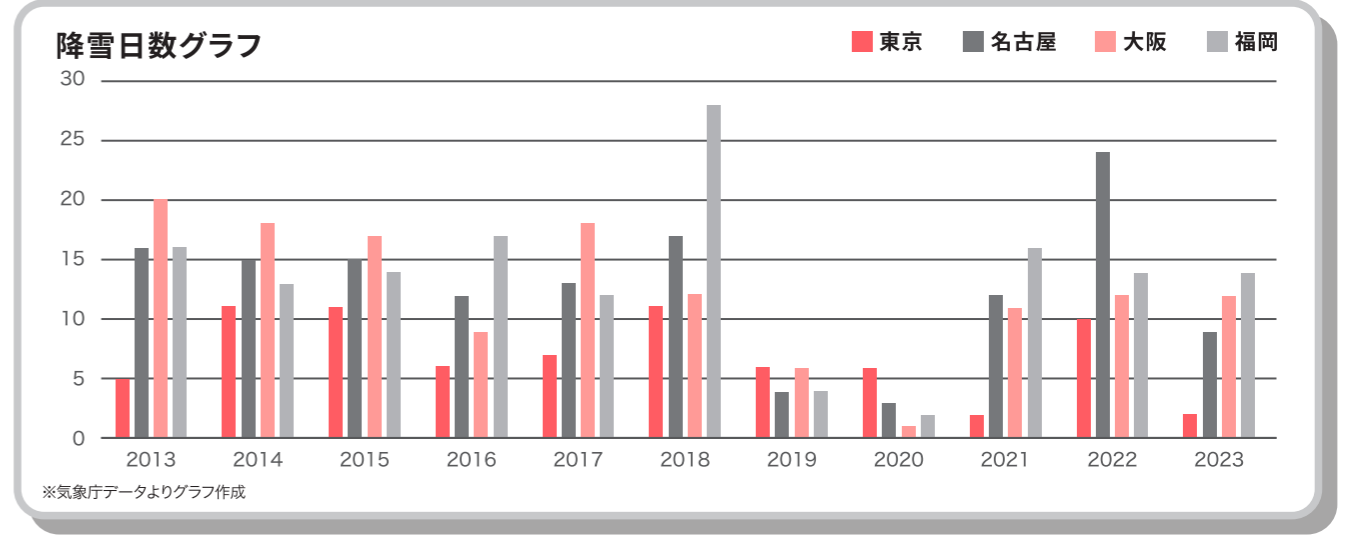
今週の天気:大雪

実際、そうした地域ではどのくらい雪の影響を受ける人がいるのだろうか。

それを知るためには、関連するデータの世界を探索する必要がありますね。

スタッドレスタイヤ

4大都市圏で実際に雪が観測された日数はどのくらいだったのでしょうか？



2019年と2020年はどの都市も降雪日が少なかったんだね。

ここ4年の天候の特徴をピックアップしてみるよ！

2019年: 暖かい冬

東日本以西では冬の平均気温がかなり高く、特に沖縄・奄美は記録的な暖冬となりました。日本海側の冬の降雪量はかなり少なく、特に西日本の日本海側は記録的な少雪となりました。

2020年: 暖かい冬

全国的に暖冬で、東・西日本で記録的な高温、日本海側で記録的な少雪となりました。

2021年: 寒い冬

冬の降雪量は日本海側、特に西日本側で多くなりました。

2022年: 寒い冬

東・西日本では低温となり、日本海側を中心に大雪となりました。気温は12月下旬以降、平年を下回る傾向が続き、寒冬となりました。

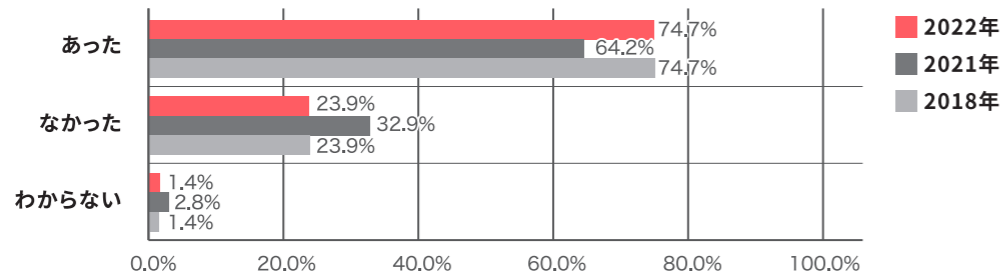


公取協が過去に実施した調査でも、積雪・凍結路面走行時にヒヤリとした経験があると回答した消費者は7割にも及びました。

～2022年 消費者意識調査概要～

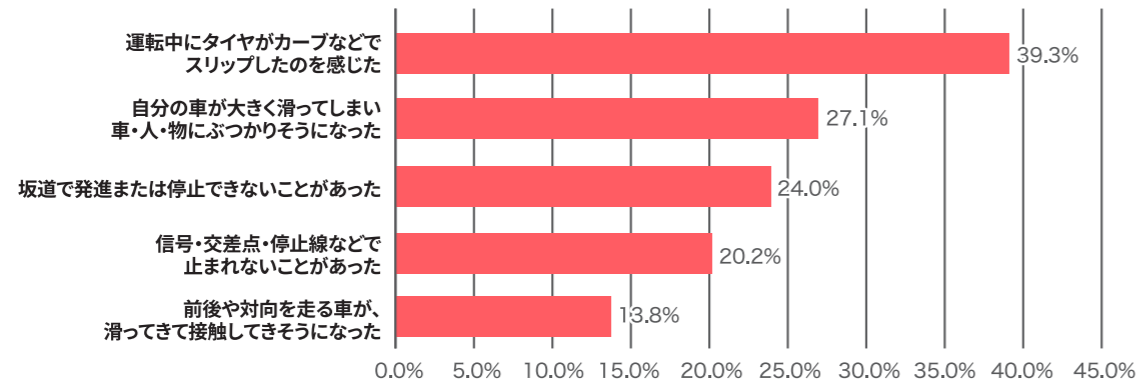
- 調査日……2022年2月 ● 調査会社……GMOリサーチ(株)
- 調査地区……東京、千葉、埼玉、神奈川、名古屋、大阪、福岡
- 自動車免許を保持、かつ自家用車を保持しており、タイヤ購入経験者1,855人を対象にインターネットにて、雪道の運転やタイヤに持つ印象について調査

Q 積雪・凍結路面走行時、ヒヤリとした経験はありましたか？



Q 具体的にどのようなことを体験されましたか？

ヒヤリとした内容(抜粋)



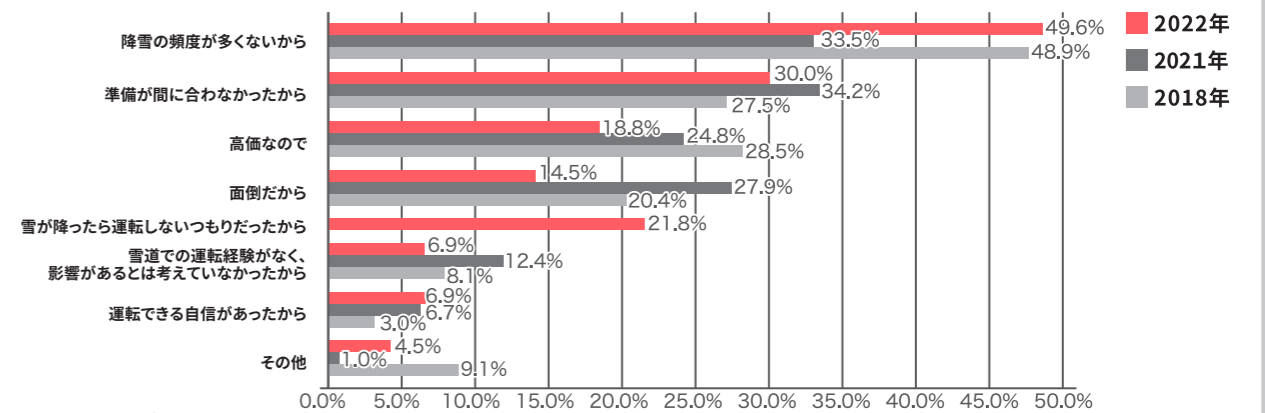
「運転中にタイヤがカーブなどでスリップしたのを感じた」が最多の39.3%でした。スタッドレスタイヤやチェーンなどの対策を取っている消費者もヒヤリとすることがあり、雪道の運転に不慣れなことが分かります。



R4年の直近の大雪時に、夏タイヤで走行していた人に、冬用タイヤに履き替えたり、チェーンを装着しなかった理由も聞いています。



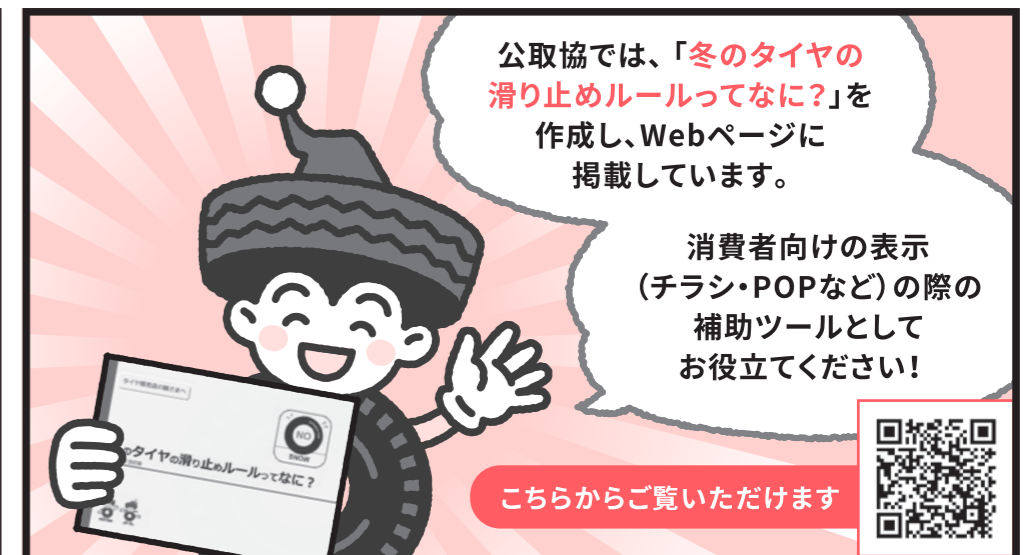
(大雪時に、夏タイヤで走行していた人に)冬用タイヤに履き替えたり、チェーンを装着しなかった理由はなんですか？



「降雪頻度が高くない」「準備が間に合わない」が30%超え。また、「面倒」「自信があった」など、積雪・凍結時における夏タイヤの使用規制についての認識が不足している意見も少なからず見られ、引き続き法令違反のおそれがあることを啓発していく必要がありますね。



雪に慣れていない地域への安全啓発は、急な雪が増えるいまからでも行えるね！



公取協では、「冬のタイヤの滑り止めルールってなに？」を作成し、Webページに掲載しています。

消費者向けの表示(チラシ・POPなど)の際の補助ツールとしてお役立てください！

こちらからご覧いただけます



タイヤ公取協だより No.144ダイジェスト

まもる君の目



発売後1年経過商品



公取協だより本誌では、この記事の他に知っておきたいコンプライアンス知識ダイジェスト まもる君の目/イラストデザイン教室など様々なコンテンツを取り上げています。会員の方はご覧になってくださいね。

イラストデザイン教室

